

平成 27 年 9 月 24 日

JEAG4601-1987 への外部からの問合せについて

1. はじめに

JEAG4601-1987 への外部からの問合せに対して、回答をまとめた。

2. 問合せ及び回答

(1) 問合せ

日付：2015 年 2 月 5 日

質問：

原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-1987 P722 にある「図 6.6. 3-41 曲がり角と振動数係数の例」において、図の実線と破線については実線実験値、点線は理論値とわかりましたが、支持スパンの縮少率を算出するには、 $\Theta = \pi$ を直線の時の λ の値として、4.73 を利用し、 $\beta = \lambda / 4.73$ として、直管の支持スパンに β 倍する値として曲がり部の縮少率を算出してよろしいのかご教授おねがいします。（以前より業務に利用しているが、本式の正式なエビデンスがないので委員会の見解がいただきたい）

参考に弊社の技術基準として、すでに利用している例をお知らせします。

(2) 回答

JEAG4601-1987 722 頁の「図 6.6.3-41 曲がり角と振動数係数の例」は、曲り角と振動数低下の関係について、参考文献 6.6.3-5（本文中の 6.6.3-4 は誤記です。）に記載の「曲がり角と振動数係数」を一つの例として記載したものです。

貴問合せの主旨は、「図 6.6.3-41 曲がり角と振動数係数の例」を利用した曲がり部の縮小率の求め方（貴問合せ文中にあるもの）について、「是認」を求めるものであると考えられます。

ところが、日本電気協会原子力規格委員会運営規約細則で、質疑応答において、「回答では、通常いかなる活動、工事、設備などに対しても、承認、公認、評定、是認をすべきではない。」と規定しています。

したがって、貴問合せに対して、日本電気協会は判断すべき立場にありません。

については、曲がり部の縮小率を算出する場合には、設計者の責任において算出して頂きたいと思えます。

以上